

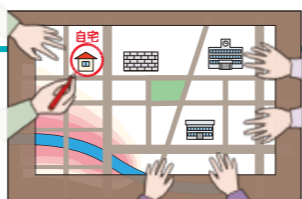
普段からの備え

ハザードマップの使い方

このハザードマップには、普段から災害リスクを認識したうえで、自分が知っておくべき「危険箇所」、「避難所」、「避難経路」、「家族との連絡方法」などの必要な情報を書き込んで、「自分だけのハザードマップ」を作成しましょう。

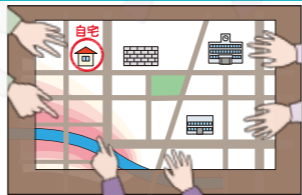
1 自分の位置を確認する

まず、自宅の位置に印をつけましょう。



2 浸水や土砂災害などの危険な場所を確認する

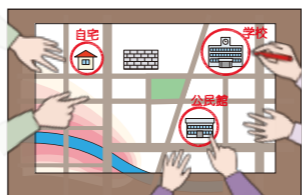
洪水による浸水被害や土砂災害が想定される範囲は、地図面に色分けして表示されています。自宅周辺でこれらの危険な場所を確認してください。



3 避難する場所を確認する

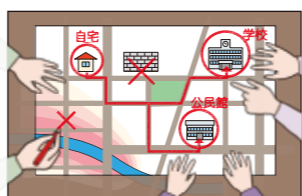
地図には町の避難所が記載されています。自宅から最寄りの避難所の「位置」と「名前」のほかに、どのような災害が起こった時に避難できるのか確認しておきましょう。

※災害の種類によっては利用できない施設があります。



4 安全な避難経路を考える

自宅からの最寄りの避難所(3で決めた場所)までの避難経路を考えて書き込んでおきましょう。その際にできるだけ「浸水の危険性がある場所」や「ブロック塀等の危険な場所」を避けて設定しましょう。



5 災害時の対応の仕方を話し合う

「自宅周辺の危険箇所」、「避難所」、「避難経路」、「避難の仕方」などについて、家族やご近所の方とあらかじめ話し合ってください。危険が迫った時、自ら避難できる様にしておくことが重要です。

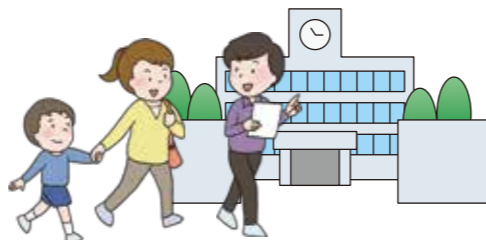
また、支援が必要な方の避難支援や避難の手段などについて話し合っておくことも重要です。



6 自分たちの目で避難経路を確認する

2から5までで確認した避難所や避難経路について、実際に家族や近所の人たちと歩いてみましょう。

その際に施設や避難経路の安全性や注意点を確認して記録しておきましょう。



7 非常時持ち出し品を準備しておく

「非常時持ち出し品リスト」を参考に、避難するときのために持ち出し品について話し合い、必要なものを準備しておきましょう。



避難に関する情報

町が出す避難情報と国や県が出す防災気象情報

洪水や土砂災害、河川の氾濫などの際に、5段階の「警戒レベル」を用いた高齢者等避難や避難指示などの避難情報を発令します。警戒レベル3【高齢者等避難】や警戒レベル4【避難指示】等が発令された際には、危険な場所から速やかに避難行動をとりましょう。

避難情報等		防災気象情報	気象状況
警戒レベル	避難行動等	警戒レベル相当情報(例)	
警戒レベル5	既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。	緊急安全確保※1 ※1 災害が発生、又は切迫している場合に発令【市町村が発令】	数十年に一度の大雨
警戒レベル4 危険な場所から全員避難	速やかに避難先へ避難しましょう。公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難指示※2 ※2 地域の状況に応じて緊急的又は重ねて避難を促す場合に発令【市町村が発令】	大雨の数時間～2時間程度前
警戒レベル3 危険な場所から高齢者等は避難	避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	高齢者等避難【市町村が発令】	大雨の半日～数時間前
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	大雨注意報・洪水注意報【気象庁が発表】	大雨の数日～約一日前
警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報【気象庁が発表】	

※各種の情報は、警戒レベル1～5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。

新型コロナウイルスの感染リスクはあっても危険な場所にいる人は避難が原則です

感染リスクを考慮した避難のポイント

資料：内閣府・消防庁

- 安全な場所にいる人まで避難場所に行く必要はありません
- 避難場所が変更や増設されていないかを確認しましょう
- 頼れる人がいれば避難場所以外への避難も考えましょう
- 車での避難や車中泊は十分な注意が必要です
- マスク・アルコール消毒液・体温計などを持参しましょう
- 避難後も一人ひとりが体調管理(毎朝の体温測定)

個々の心がけで取り組む感染対策

まずは、避難場所での集団生活における運営ルールを理解して、協力することが大前提です。その上で、個々の心がけや工夫によるさまざまな取り組みを通して、避難場所での感染対策の質を改善し、マナーや姿勢を向上させていきましょう。

- 人との間隔は、できるだけ2メートル(最低1メートル)空け、会話をする際はできるだけ真正面を避ける
- 個人の携帯電話やスマートフォン、タブレットなどの貸し借りを控える
- マスクは常用する。一時的に外す場合は、共用テーブルなどに置かない
- ドアノブ、スイッチ、手すりなど多くの人が触る共用部分は、使用前後に消毒する
- 洗面用具(タオル、ハンカチ、ブラシなど)や食器(皿・箸・コップなど)を共用しない
- 向かい合わせではなく、背を向けて座る。段ボールで簡単な仕切りをつくる